

□ 夏期特別展 □

「掘り起された平塚」

期間 昭和57年7月20日(火)  
～8月29日(日)

場所 平塚市博物館・特別展示室

内容 (特別展示) 縄文時代の遺跡 弥生時代の遺跡 古墳時代の遺跡 歴史時代の遺跡(奈良・平安・鎌倉・室町時代)他

(記念講演会) 8月1日(日) 「

古代の四之宮について」 講師・市社会教育課文化財担当主査・小島弘義

8月8日(日) 「平塚市の埋蔵文化財について」 講師・市文化財保護委員・日野一郎氏

(体験学習会) 土器を作ろう

8月11、12、13日

新しい博物館協議会委員さん決まる!!

新しい平塚市博物館協議会委員さんが決まりました。任期は、昭和57年5月1日から昭和59年4月30日までです。

これから2年間、博物館の運営に関し、貴重な御意見をいただく方がたです。

新委員さんは、次のとおりです。

(会長) 山本 倭一 日大教授

(副) 井出 栄二 元静岡大助教授

藤田 経世 神奈川県立博物館  
協議会委員

見上 敬三 横浜国大教授

藤村 富士太郎 元会社役員

水島 敏夫 市立中原中学校長

どうぞよろしくお願いたします。





## 発掘された平塚

7月20日から8月29日まで、夏期特別展「掘り起された平塚」展が開催されますので、今回はその時の主な展示品を御紹介いたします。



### 弥生式土器壺(王子台遺跡出土)▶

北金目にある東海大学敷地内の王子台遺跡の住居址から出土した、弥生時代中期中葉の壺。平塚市最古の弥生時代の土器でもある。

土器は肩のない長頸をし、口が細いのが特徴で、文様はヘラで、顔面が描かれている。従来この種の土器は棺として用いられている例が多だけに、住居址(集落)からの出土は注目される所である。



### 石製の袴(四之宮下ノ郷遺跡群出土)▶

四之宮にある大野小学校周辺を四之宮下ノ郷遺跡群と言ひ、その中のひとつの遺跡から古代官位を示す袴(か)帯が多数出土している。右図はヒスイでできた石製の袴で、身分規定によれば玉石帯・メノウ帯は五位以上とされていることから、国司クラスの人物が身につけたものと推定される。この石袴を出土した周辺は国府関連遺跡として注目されている。

### ◀ 有孔つば付土器(上ノ入B遺跡出土)

岡崎小学校々庭内の、上ノ入B遺跡の竪穴式住居址から出土したもので、縄文時代中期の土器。高さ約43.5cm、口径約27cmの樽状をし、表面に赤彩が施され、粘土紐で人体か動物(カエル)の文様が描かれている。用途は楽器説(タイコ)や醸造器説が考えられているが、はっきりしていない。県内でも数少ない優品のひとつである。



### ◀ 三角縁神獸鏡(真土大塚山古墳出土)

真土の砂丘上にあった真土大塚山古墳から出土した鏡。上に二神、下に二神と上下に四神、左に竜、右に虎が描かれている四神二獣鏡と言われる鏡で、同じ鏡が京都の椿井大塚山古墳と岡山の湯迫車塚から出土している。この鏡を巡って大和朝廷との関係が説かれている。古墳は、平塚市では最古かつ南関東を代表するものである。

